

私立大学図書館協会西地区部会東海地区協議会
図書館サービス・システム委員会主催
第2回横断検索検討会議議事録

日 時： 2006 年 12 月 18 日（月） 14 時～16 時

場 所： 金城学院大学図書館

参加業者：(株)日立製作所、(株)ブレインテック、丸善(株)、(株)リコー

出席者： 足立祐輔(愛知学院大学)、鈴木卓美(金城学院大学)、長縄克枝(中部大学)、
蓑島智子(中部大学)、中川大信(豊橋創造大学)、尾崎友子(名古屋女子
大学)、石田信(南山大学)、小川真智子(愛知工業大学)

(敬称略)

記 録： 小川真智子(愛知工業大学)

【協議事項】

議事に先立ち、第1回横断検索検討会議の議事録確認を行った。

1) 図書検索 Web Service 案について

資料に基づき、(株)リコー担当者より通信の共通仕様案について説明が行われた。

- ・ Web API の活用にあたり、SOAP および REST の方式を検討した。横断検索で扱うデータや Amazon のサービスを利用するサイトの使用率などを考慮すると、リクエストは REST 形式が好ましい。
- ・ REST 形式では検索結果の絞込みができないなど、機能の制限がある。NACSIS-Webcat に準じた検索画面は実現可能であるが、ある程度の共通項目しか検索できないという認識が必要とのことであった。
- ・ レスポンスの書式は XML で書誌事項に Dublin Core に所蔵・状況を追加した形式が提案された。
- ・ 検索指定(完全・前方・中間一致など)は各メーカーの実装により異なる。
- ・ 画面や検索結果の表示内容については個々のベンダーと各図書館の要望により個別に作成できる。
- ・ NC と JP の書誌階層が異なるので、不具合が発生する可能性があるという指摘があった。

2) 図書館側の要望について

- ・ 検索結果を表示させるまでの通信速度についても重要視している。

- ・ 検索される側で、検索実行機関の検索可否について設定を行いたいという要望があった。大学間の取り決めが必要であるが、技術的には IP アドレス指定等の方法で可能である。

3) 今後の検討課題

- ・ ヒット件数が 0 件の場合の仕様について
- ・ 図書館側で、横断検索で何ができるようにしたいか、何ができないといけないか、どういう結果を表示するのか検討し要望をまとめる。
- ・ 検索結果は所蔵の有無のみ表示するようにし、貸出状況や配置場所等の詳細情報は各 OPAC にリンクする形式が提案された。
- ・ 件数が多く複数ページにわたる場合、頁送りを要求することに検索と同じ負荷がかかる。上限件数の検討が必要である。

以上